飯能市原市場の地名について

　原市場の歴史、地名がだんだんと見えにくくなっている。そこで地元の魅力として昔の原市場郷土史などを読み、地元の方々及び郷土史研究会の話をお聞きしたり“原市場地区の鉄文化を訪ねて”に参加し文化財見学などで昔を探求。また、四季を感じる歩こう会に参加、飯能市各所の自然を楽しく探索。
（詳細は原市場東自治会ホームページに地元の魅力や四季に花々など掲載しています、是非ご覧になってください）

　現在の原市場地区の地名は飯能市自治会連合会 原市場支部の１７自治会にて管理されている。飯能市から自治会へ事務委託(飯能市ホームページ参照)
飯能市自治会連合会は 13 の支部に属する 135 の自治会をもって構成される。
原市場は 13 支部の 1 支部 17 自治会であり、地区の地名は以下の通り。
・原市場・原市場東・妻沢・石倉・唐竹・唐竹つつじヶ丘・赤沢・西赤沢
・中沢・上赤工・下赤工・赤工中・中藤下郷・中藤中郷・中藤上郷
・中藤杉の木台・中藤堂西がある。
＊原市場東自治会は房ヶ谷戸地区、金山地区、曲竹地区が集約され東は一の瀬橋～扇橋～二の瀬橋～大正橋～金山流れ橋～倉掛峠までの細長い区域。

　飯能市史 地名・姓氏資料編 大字・小字では原市場地区の小名には原市場、下赤工、上赤工、赤沢、唐竹、中藤下郷、中藤中郷、中藤上郷、南(中沢組)。
旧原市場村は明治７年に曲竹村を合併している。
原市場は東に曲竹、上赤工、西は赤沢、および名栗村、南が唐竹および赤沢、一部は直竹にかかっている。北には中藤と南の中沢がある。
昭和 31 年 原市場村が飯能市に合併以後、南(中沢)は原市場地区に編入された。
原市場村は日影村とあり、そのなかに後の中藤、赤沢、原市場の３村が含まれていた。
小名 原市場は、今も自治会に残って字原郷の周辺を言っており、昔は市がたって賑わい、村名もここから起こったのはいうまでもない。
原市場小名：小住、山崎(旧曲竹村)、石倉、原市場、舊生、妻沢、金山、房ヶ谷戸(旧原市場村)。
旧原市場村には山下、肥沢ｺｴｻﾞﾜ、房ヶ谷戸ﾎﾞｳｶﾞﾔﾄ、金山ｶﾅﾔﾏ、日野沢ﾋﾉｻﾜ、勝久保ｶﾁｸﾎﾞ、笹山ｻｻﾔﾏ、中橋ﾅｶﾊｼ、鹿ノヶ入ｶﾉｺｲﾘ、横道ﾖｺﾐﾁ、宮の脇ﾐﾔﾉﾜｷ、原郷ﾊﾗｺﾞｳ、反境ﾀﾝｻﾞｶｲ、坂下ｻｶｼﾀ、他多くの小名があり省略。
旧曲竹村は山崎、曲竹ｸｾﾀﾞｹ、小久住ｺｸｽﾞﾐ、庚塚ｶﾉｴﾂﾞｶ、平久保ﾀｲﾗｸﾎﾞ、柳瀬ﾔﾅｾがある。

原市場地区の「地名と屋号」著書より抜粋

・山崎(やまさき)「やまさく」：平地に山の端が延びている所の意。
・曲竹(くせたけ)：たけは崖で、曲がった崖のある地形の意。
・小久住(こくずみ)「こむすみ」：①高句住、こくすみで、高句麗人の住んだ土地との説がある。②崩れで洲のある所。
・庚塚(きのえづか)「かのえづか」：房ヶ谷戸への古い道筋で庚塚があった。
・平久保(たいらくぼ)：平らで山腹。真中を沢が流れる山腹にある窪地。
・柳瀬(やなせ)：川瀬にやな(簗)を仕掛けて魚を取る所。
・山下(やました)：三角点 291.8 のある山の下にある。
・肥沢(こえざわ)「こいざわ」：小さな谷川の流れている地味の良い土地。
・房ヶ谷戸(ぼうがやと)「ぼうがいと」：①寺(房)のある小平地。
②寺の垣外の小平地。
・金山(かねやま)：製鉄場。または鉱山の地。
・日野沢(ひのさわ)「ひのさー」：①日当たりの良い谷川の流れる土地。
②火を焚いた谷川のある土地。
・勝久保(かちくぼ)：河合で谷川の合流点に沿った窪地。
・笹山(ささやま)：①笹のたくさん生えている山。
②ささ細少で小さな傾斜地をもつ山。
・中橋(なかはし)：中藤上郷の北の入に続く地。
・鹿ノヶ入(かのこいり)「かのがいり」：かの 切替畑や焼畑で、中央を沢が流れる焼畑の跡地で谷の奥地。
・横道(よこみち)：地内を横切る道に沿った土地。
・宮の脇(みやのわき)：白髭神社の坐す土地。
・原郷(はらごう)：平らに開けた村落。原市場といわれる土地。
・反境(たんざかい)：妻沢の下にうつる。反は谷の転であろう。
妻沢を谷として原市場とは谷境の場所になる。

＊妻沢というのは石倉と同様に小名である。そのため公図にはないが 3Km 以上もある長い沢で、宝平のさき仁田山峠へんまでの沢添いを言う。自治会がつくられている。妻沢のつまは端のこと。

＊石倉というのは江戸時代の小名。公図にはないが、入間川南の唐竹に隣る広い地域で自治会が組織されている。原市場と石倉をむすぶ橋を石原橋という。

地名の特徴は山間部特有の地形から名付けられた地名が多くあり、次号にてもう少し洗い出しをしてみることにする。

地名の“いり「入」“がやと「ヶ谷戸」を掲載済み“くぼ「久保・窪」”は別途掲載を予定、資料は原市場東自治会ホームページを検索お願いします。　　以上